



キーワード： 「21世紀型学力の基盤づくり」 「学生や地域の人材を活用した預かり保育の実施」



学生企画の運動遊び

北海道教育大学附属函館幼稚園では、少子化が加速する地域の中で、幼稚園に求められる先進的な教育に取り組んでいる。全国附属幼稚園に先駆けて開始した特色ある預かり保育の充実により、就業する母親にも対応できる地域や時代のニーズにあった多様な入園者を選考することとなり、幅広い意味で地域の就学前教育のモデルとなることが可能になった。また、保護者や地域住民・学生等の参画を得た預かり保育の取組は、大学や社会との連携を強化し、地域のコミュニティスクールへと還元していく実践となっている。

## ① 保護者や地域・大学の人材を活用した新しい子育て支援のカリキュラム開発

全国の国立附属学校で初となる預かり保育の取組を平成22年度に導入した。平成28年度には子育て支援の観点から毎日の預かり保育と週2回の給食を導入し、平成29年度からは朝預かりや延長保育、長期休業中の預かりも始め、地域では一般的でありながら今まで実際に附属幼稚園に入園することが難しかった「就業している母親の子」にも門戸を広げ、さまざまな人材の知識や経験を活かした体験を重ねることのできる幼稚園として機能することを目指した。預かり保育は教育課程内の保育と有機的に繋がり、大学や地域と連携し学生や外部人材を活用した年間計画の中の、下記の4つのプログラムに基づき実施している。

- 家庭的な雰囲気での自由遊び「わくわく」…新しい子育て支援のあり方を目指して  
親子共々安心・安全と感じられる環境の園内で教育課程内や家庭では体験できない異年齢交流を楽しむ
- お楽しみ「イベント」…学生サークル・PTAのOB・外部ボランティア等の方々が来園  
よさこい・日舞・吹奏楽・歌・絵本読み聞かせなど、子供を取り巻く豊かで充実した環境に触れる
- レッツ「講座」…学生や大学の先生・外部の講師の方々等が来園  
園児がサッカー・茶道・キッズビクス・おとあそび等の定期的な講座に主体的に参加し体験する
- 学生企画「あそびっこ」「のびのび」「うきうき」…学生の地域での活動の一端を担う  
ゼミ学生の定期的・継続的な遊び計画により実施される、附属園ならではの人材を活用した教育課程外のダイナミックな遊びを楽しむ

※保護者に対しては、地域人材を活用した子育て支援「スマイル講座」「食育講座」なども行っている

## ② 地域のモデルとなる先進的かつ実践的な研究の推進

ヒントをもとに宝物探し



附属小学校、中学校で重視されているICT教育やアクティブラーニングに繋がる遊びを幼稚園から実施している。年長児にはひとり1台のタブレットPCを用意し、プログラミング教育を実践。年長からタブレットPCを普段の遊びのツールとして使っている。小学校や中学校の教科学習に繋げていけるような形で研究を進め、連携をはかり、21世紀型学力の基盤づくりとしての先進的な教育を実践している。

また、次期幼稚園教育要領や保育所保育指針の解説に記載されている「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」の具現化をめざし、幼児の「見方・考え方」を培う遊びのプロセスの研究を、公立幼稚園にとどまらず地域の私立幼稚園、保育所、認定こども園等と協働して進めている。